

テルミサルタン錠 20mg「FFP」の 無包装状態の安定性に関する資料

【はじめに】

テルミサルタン錠 20mg「FFP」について、各種条件下で無包装の安定性試験を実施した。なお、本資料は本製剤の無包装状態での保存を推奨するものではない。

【試験結果概要】

無包装状態における安定性は、温度の保存条件で、いずれの試験項目においても規格値の範囲内であった。しかし、湿度の保存条件で、溶出性が規格外となり、規格内ではあるが硬度の低下が認められた。また、光の保存条件では、性状が規格外となった。

【試験結果及び判定】

(1) 温度に対する安定性

【保存条件】40°C(±2°C)、褐色ガラス瓶(密栓)

試験項目	規格	経過年月			
		開始時	1ヶ月後	2ヶ月後	3ヶ月後
性状	白色～微黄色の素錠	白色の素錠	変化なし ◎	変化なし ◎	変化なし ◎
溶出性 (%)	溶出試験第2液、50回転、30分、85%以上	90～98	88～94 ◎	87～95 ◎	94～97 ◎
含量 (%)	95.0～105.0%	100.2	101.2 ◎	100.9 ◎	101.1 ◎
硬度 (kg重)	(参考)	13.1	13.1 ◎	13.0 ◎	12.7 ◎

(2)湿度に対する安定性

【保存条件】25°C(±2°C)、75%RH(±5%)、褐色ガラス瓶(開放)

試験項目	規格	経過年月			
		開始時	1ヶ月後	2ヶ月後	3ヶ月後
性状	白色～微黄色の素錠	白色の素錠	変化なし ◎	変化なし ◎	変化なし ◎
溶出性 (%)	溶出試験第2液、50回転、30分、85%以上	90～98	94～99 ◎	89～97 ◎	21～97 △
含量 (%)	95.0～105.0%	100.2	101.4 ◎	101.3 ◎	101.6 ◎
硬度 (kg重)	(参考)	13.1	9.1 ○	8.8 ○	9.2 ◎

(3)光に対する安定性

【保存条件】温度及び湿度は成り行き、1000lux/hr×24時間/日照射、シャーレ(開放)

試験項目	規格	総照度		
		開始時	60万 lux・hr	120万 lux・hr
性状	白色～微黄色の素錠	白色の素錠	淡黄色の素錠 △	淡黄色の素錠 △
溶出性 (%)	溶出試験第2液、50回転、30分、85%以上	90～98	91～98 ◎	92～96 ◎
含量 (%)	95.0～105.0%	100.2	99.6 ◎	99.7 ◎
硬度 (kg重)	(参考)	13.1	12.8 ◎	13.1 ◎

[評価基準]**【性状】**

分類	評価基準	判定
変化なし	外観上の変化をほとんど認めない場合	◎
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合	○
変化あり(規格外)	形状変化や著しい色調変化を認め、規格を逸脱している場合	△

【溶出性】

分類	評価基準	判定
変化なし	規格値内の場合	◎
変化あり(規格外)	規格値外の場合	△

【含量】

分類	評価基準	判定
変化なし	含量低下が3%未満の場合	◎
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合	○
変化あり(規格外)	規格値外の場合	△

【硬度】

分類	評価基準	判定
変化なし	硬度変化が30%未満の場合	◎
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2.0kg重以上の場合	○
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2.0kg重未満の場合	△

【その他の試験項目】

分類	評価基準	判定
変化なし	規格値内の場合	◎
変化あり(規格外)	規格値外の場合	△

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」平成11年8月20日付

(日本病院薬剤師会)一部改変